

授業科目名	心 理 学	単 位 認 定 者	西 村 昭 徳
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義を中心に授業を行う（視聴覚教材やワークを用いて可能な限り体験的に学習する）
科 目 の 目 的	心理学の基礎を学ぶと同時に、心理学的な視点から自己理解・他者理解を深める
学 習 到 達 目 標	1．心理学の概要を理解し、国家試験対策の基礎を形成する 2．心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る 3．心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に生かす
関 連 科 目	臨床心理学 発達心理学 カウンセリング
成 績 評 価 方 法	出席状況、受講態度・意欲、期末試験を基にして総合的に評価を行う

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	心理学を学ぶ意義	医療と心理学、心理学の領域	【 . 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】 2 . 臨床心理学 A 基礎理論
2	物理的世界と心の世界	五感のはたらき、地と図、錯覚、知覚の恒常性	a) 歴史, b) 防衛機制と転移 【 . 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】 2 . 臨床心理学 A 基礎理論
3	記憶と注意の心理	記憶のしくみ、忘却、日常記憶、高齢者の記憶 記憶の障害、ワーキングメモリと注意機能	c) 学習・記憶・行動
4	学習のメカニズム	古典的学習、オペラント学習、観察学習	【 . 人体の構造と機能及び心身の発達】 4 . 人間発達学 A 総論
5	欲求と動機づけ	動機・欲求の種類、社会的欲求、欲求の階層、 欲求不満と葛藤	a) 定義、目的, b) 発達理論, c) 発達段階と発達課題 d) 身体発達, e) 精神発達, f) 心理社会的発達 B 各期における発達
6	心理学的性格論	性格とは何か？、性格の類型論と特性論	a) 小児期, b) 青年期, c) 老人期, d) 老年期
7	心理学的性格論	性格検査とその活用	【 . 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】 2 . 臨床心理学 B 正常および異常心理
8	成長と発達の心理	ピアジェの発達理論、エリクソンの発達理論	a) 児童・青年期心理, b) 成人・高齢者心理, c) 障害者心理
9	集団行動の心理	集団の分類、リーダーシップ	
10	人間関係の心理	対人認知、原因帰属、ハロー効果、寛大効果	
11	健康と異常	健康の定義、ポジティブ心理学	
12	臨床心理学	ストレスと心の病理	
13	カウンセリングと心理療法	カウンセリングの理論と方法、看護におけるカウンセリングマインド	
14	カウンセリングと心理療法	医療現場における様々な心理学的介入	
15	期末試験		

教 科 書	「心理学・臨床心理学入門ゼミナール」(北大路書房)
参 考 書	授業中に適宜紹介する

授業科目名	生命倫理	単位認定者	森川 功
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	生命倫理の基本原則について学び、具体的な事案の倫理的是非について第三者的な立場から論じることができるようになるとともに、人の存在価値に関する概念的対立について学び、具体的な事案の当事者として自己の主張を論理的に展開することができるようになることを目的とする。
学習到達目標	1. 現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握する。 2. 基本的な倫理原則について説明できる。 3. 具体的な事案の倫理的是非について少なくとも第三者的な立場から論じることができる。
関連科目	看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、生命科学、医療民俗学、法学
成績評価方法	レポート(複数回提出)の成績および授業への貢献度(質疑応答など)により総合的に判断する。履修者の理解の程度によってはテストを実施する場合もあり得る。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	生命倫理とは	倫理と道徳 生命倫理学とは 生命倫理学の成立に影響した数々の出来事 ナチスによる人体実験 ニュールンベルク綱領 タスキギー梅毒研究 ウィローブルック研究 ユダヤ慢性病病院事件 何故にいま生命倫理学なのか	
2	倫理理論と種々の倫理原則	倫理理論 直観主義 義務尊重主義 結果尊重主義 権利重視の倫理 種々の倫理原則(看護倫理を含む)	
3	基本倫理原則(1)	侵害回避の原則 ヒポクラテスの誓い 避けるべき害悪 ガン告知と専門家の守秘義務 二重効果の原則 医療行為の是非 恩恵の原則 互惠の確保 恩恵を与える義務に対する制約 義務を負うか否かを判断するための考慮事由 パターナリズム 最善の利益 生体的な善とその他の善	
4	基本倫理原則(2)	自律の原則 自律とは 自律を行使するために必要とされる能力 イマニュエル・カント 医療に関する観念としての自由 情報の開示 事前指示書 リビング・ウィル	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
5	基本倫理原則(3)	<p>カレン・アン・クインラン事件 持続的代理決定委任状 ナンシー・クルーザン事件 自律の原則の優先性</p> <p>公正の原則 資源配分 マクロな配分とミクロな配分 資源の稀少性 恩恵(利益)と害悪(負担)の配分 公正の概念 公正な資源配分に関する理論 功利主義理論 マクシミン理論 平等主義理論 臓器移植における患者の選抜を事例として</p>	
6	インフォームド・コンセント	<p>インフォームド・コンセントに関する種々の誤解 インフォームド・コンセントの概念 治療法選択の段階でのインフォームド・コンセント インフォームド・コンセントの構成要素 患者による理解と決定のための「患者の意思能力」 重要情報の「医師による開示」 医学的処置の「医師による推薦」 開示された情報などの「患者による理解」 医学的処置を支持する「患者の決定」 支持する決定における「患者の自由意思」 医学的処置の実行に関する「患者による授権」</p>	
7	生命の神聖さ(SOL)と生の質(QOL)	<p>人とはいかなる存在であるのか 生命とその属性 SOLの概念 QOLの概念 SOL対QOL</p>	
8 ~ 15	個別的な論題および種々の事案の紹介と検討	<p>個別的な論題については履修者が希望するものを選びあげる。特に希望がない場合には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢患者による治療拒否</li> <li>2) 植物状態患者(死の定義)</li> <li>3) 安楽死</li> <li>4) 生殖補助医療</li> <li>5) 出生前検査・診断</li> <li>6) 新生児医療</li> </ol> <p>などを論題として採りあげ、種々の事案の倫理的是非の検討を行なう予定である。</p>	

教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書	森川 功『生命倫理の基本原則とインフォームド・コンセント』(じほう、2002年) その他については、講義中に適宜指示する。

授業科目名	教 育 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	本授業では、「教育」について一般的・基本的事項を講義する。 意図的な「教育」は、主として学校や家庭で行われるが、看護や医療の場において教育的な配慮が必要であることは言うまでもない。教員や親としてはもとより、医療従事者にとっても必要な「教育者」の素養を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	教育の本質（概念・思想・理論など）を理解し、広い視野から多面的に考え、学習者の実態に即して望ましい教育のあり方を考えることができるようにする。 青少年の問題行動について関心を持ち、親として、またはその青少年に身近な成人としてどのように対処するか短期的、または長期的に解決する方策を考えることができるようにする。
関 連 科 目	生活学 家族学 地域社会学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング
成 績 評 価 方 法	定期試験 受講時の感想文や意見文の提出など平常時の取り組みの態度をも加味する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	教育	「教育」を考える 個の資質・家庭・学校・社会・制度	
2	教と育	教育哲学・教育思想 「しつける」「教える」「育てる」	
3	学と習 (動機付け)	「覚える」「分かる」 動機づけ(外的・内的)	
4		事例研究	
5	心の教育	宗教的心情の教育 道徳教育	
6	発達と教育	教育の適時性 胎児期・乳児期	
7		児童期・青年前期	
8	学校教育 学校教育の効果	教育内容 教育方法 事例研究	
9	教育制度	「量の教育」から「質の教育」へ 「知識」から「学び方」へ 教育課程	
10	ゆれる教育改革	現行の教育制度 教育制度の変遷 「生きる力」と「問題解決の能力」	
11	教育関係法	教育基本法 教育関係法規 行政機関との関係	
12	学校不応	学校不応・いじめ・引きこもり 事例研究	
13	特別支援教育	心身に障害のある児童 発達に偏りのある児童	
14		インテグレーション・・・	
15	定期試験		

教 科 書	プリントによる
参 考 書	授業時に紹介

授業科目名	医療民俗学	単位認定者	板橋春夫
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	医療文化のあり方を考えるときに、誕生や死に際して行われる儀礼や慣行についての基礎的知識を持つことは大変重要であると思う。本授業では誕生、病気、健康、魂、死をキーワードに、身近な事例を紹介しながら日本人の「いのち」観について、分かりやすい講義を展開する予定である。
学習到達目標	(1) 誕生民俗の過去と現在のあり方を学ぶ。 (2) 病気・健康の歴史と文化を学ぶ。 (3) 死の民俗に関する儀礼と慣行を学ぶ。
関連科目	関連しあう教養科目 生命倫理 家族学
成績評価方法	定期試験と出席状況で評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	(1) 誕生民俗と生命観  (2) 健康と医療  (3) 死者儀礼と死後の世界	元気と病気(「養生訓」の紹介) 大安退院問題(六曜の知識) 旧暦と干支(暦の知識、十干十二支の知識) 丙午俗信と出産行動(俗信と近代医療) 胎児の生命(産死の身二つ慣行の分析) 産着と魔除け(魔物と魂の問題) 名付けと人生(悪名と仮り名の習俗) 双子観の変化(出産環境と医療) 男性産婆がいた(産婆の技術と呪術) 健康と癒し(健康飲料・健康ブーム) 急病人搬送の民俗(医療と習俗) 長寿と厄年(長寿銭と長寿観) 看取りと臨終(介護問題と家族) 死の判定とタマヨビ(医療化以前の伝統文化) あの世とこの世(死者儀礼と現代社会)		

教科書	「誕生と死の民俗学」 板橋春夫著 (吉川弘文館)
参考書	

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 理 論	単 位 認 定 者	近 藤 照 彦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	テキストを中心に講義する。講義内容の理解を深めるために、関連するビデオにて学習する。講義内容に関連するスポーツや健康の話題について報告する。車椅子バスケットボールの講義を予定している。
科 目 の 目 的	理学療法士の資格を目指す学生に対して、スポーツ科学および運動生理学の側面から身体におよぼす運動の効果、健康づくりを実践するための理論について学習する。
学 習 到 達 目 標	運動における生体の生理的变化（筋・神経系、呼吸循環系、肥満・代謝系など）の概論が理解できる。教材学習によりテキストで理解した内容を充実させる。
関 連 科 目	生理学、解剖学、運動学
成 績 評 価 方 法	定期試験・出席点の総合評価とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	ガイダンス	講義概要・運動生理学の学習の意義について	
2	筋の機能と役割	筋線維の種類とその特徴	
3	障害とスポーツ	車いすバスケットボール	
4	筋の機能と役割	筋の収縮様式と筋力	
5	運動と呼吸	運動と循環	
6	運動と呼吸	運動と呼吸	
7	運動と内分泌	運動とホルモン	
8	運動と肥満	身体組成と肥満	
9	運動処方	運動処方・車いすバスケットボール	
10	運動と生活習慣病	メタボリックシンドローム、肥満の最近の知見	
11	運動と体温	運動と体温調節	
12	運動と疲労	筋疲労の要因	
13	運動と老化	老化にともなう身体機能の変化	
14	運動と栄養	運動と栄養、運動選手の栄養	
15	まとめ	まとめ	

教 科 書	入門運動生理学
参 考 書	講義時に随時案内

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 実 技	単 位 認 定 者	近 藤 照 彦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	高山キャンパスの体育館、高山運動公園グラウンドおよび高山キャンパス周辺において、健康づくりを実践するための実技を行う。からだの調整（コンディショニング）としてウォーキングを中心に行い、次第に個人の体力レベルとモチベーションを高めることを目標とする。スポーツは、体育館およびグラウンドで行える選択制のレクリエーションスポーツとする。車椅子バスケットボールの講義を予定している。
科 目 の 目 的	健康スポーツ理論の実践として健康増進、体力向上のための運動を行う。生涯スポーツ、レクリエーション参加を通じた生活の質の向上を実践する。スポーツの実践を通してクラブ活動やスポーツ大会参加などの社会参加を養う。
学 習 到 達 目 標	健康のための運動の実践と体力の向上を到達目標とする。集団行動における協調性やコミュニケーションを養うことも目標とする。
関 連 科 目	健康スポーツ理論
成 績 評 価 方 法	出席、意欲、態度および実技能力での総合評価とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	ガイダンス	講義概要の解説（高崎キャンパス教室）	
2	実技1（2コマ）	高山キャンパス、キャンパス周辺、グラウンド、体育館 コンディショニング（体力の調整）、ストレッチ ウォーキング、健康度調査など	
3			
4			
4	実技2（2コマ）	高山キャンパス、コンディショニング（体力の調整） 12分間走トレーニング	
5			
6	実技3（2コマ）	高山キャンパス、12分間走テスト コンディショニング（体力の調整）	
7			
8	実技4（2コマ）	高山キャンパス、12分間走テスト予備日 グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ	
9			
10	実技5（2コマ）	高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ	
11			
12	実技6（2コマ）	グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館車いすバスケットボール	
13			
14	実技7（2コマ）	高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ	
15			

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	総 合 英 語	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	保健医療に関する文章を読み，関連するビデオを鑑賞する．
科 目 の 目 的	保健医療の分野で使用される英語を学習する．
学 習 到 達 目 標	保健医療の分野で使用される英語を読む・書く・聞く・話すことができる．
関 連 科 目	教養・専門基礎・専門の各科目
成 績 評 価 方 法	授業参加，小テスト，期末テストの成績を総合して評価をする．

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	Introduction	総合英語 の学習方法	
2	Unit 1	Stress and Anxiety の講読	
3		Video を見て表現を学ぶ	
4	Unit 2	Vitamins and Suppliments の講読	
5		Video を見て表現を学ぶ	
6	Unit 3	Alzheimer s の講読	
7		Video を見て表現を学ぶ	
8	Unit 4	Music Therapy の講読	
9		Video を見て表現を学ぶ	
10	Unit 5	Laughter as Medicine の講読	
11		Video を見て表現を学ぶ	
12	Unit 6	Robotic Surgery の講読	
13		Video を見て表現を学ぶ	
14	Review	構文，語彙，語法の復習	
15	期末試験		

教 科 書	English for Health and Medicine, John S, Lander 著，朝日出版
参 考 書	辞書類，たとえばジーニアス英和辞典（大修館），看護英和辞典（医学書院）



授 業 科 目 名	総 合 英 語	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	保健医療に関する文章を読み，関連するビデオを鑑賞する．
科 目 の 目 的	保健医療の分野で使用される英語を学習する．
学 習 到 達 目 標	保健医療の分野で使用される英語を読む・書く・聞く・話すことができる．
関 連 科 目	教養・専門基礎・専門の各科目
成 績 評 価 方 法	授業参加，小テスト，期末テストの成績を総合して評価をする．

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	Introduction	総合英語 の学習方法	
2	Unit 7	Safe Anesthetics の講読	
3		Video を見て表現を学ぶ	
4	Unit 8	Physical Therapy の講読	
5		Video を見て表現を学ぶ	
6	Unit 9	Cosmetic Surgery の講読	
7		Video を見て表現を学ぶ	
8	Unit 10	Vaccine Availability の講読	
9		Video を見て表現を学ぶ	
10	Unit 11	Safe Blood and AIDS Prevention の講読	
11		Video を見て表現を学ぶ	
12	Unit 12	The Visible Human Project の講読	
13		Video を見て表現を学ぶ	
14	Review	構文，語彙，語法の復習	
15	期末試験		

教 科 書	English for Health and Medicine, John S, Lander 著，朝日出版
参 考 書	辞書類，たとえばジーニアス英和辞典（大修館），看護英和辞典（医学書院）

授 業 科 目 名	英 語 表 現	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	保健医療の口語英語を解説し実用の模倣やロールプレイなどを行う。
科 目 の 目 的	保健医療の現場で使用される口語英語を学習する。
学 習 到 達 目 標	保健医療の現場で英語を聞く・話すことができる。
関 連 科 目	総合英語 ，
成 績 評 価 方 法	授業参加，小テスト，期末テストの成績を総合して評価をする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	Introduction	英語表現の学習方法	
2	Unit 1, 2	通院と検査の英語	
3	Unit 3, 4	入院と院内の英語	
4	Unit 5, 6	問診と診察の英語	
5	Review	語彙と語法の復習	
6	Unit 7, 8	検査と病室の英語	
7	Unit 9, 10	リハビリ室の英語	
8	Unit 11, 12	基本的指示と可動域訓練の英語	
9	Review	語彙と語法の復習	
10	Unit 13, 14	ベッドサイドと移乗動作の英語	
11	Unit 15, 16	マット上訓練と立ち上がりの英語	
12	Unit 17, 18	歩行・呼吸・排痰の英語	
13	Unit 19, 20	温熱・牽引・水治療の英語	
14	Review	語彙と語法の復習	
15	期末テスト		

教 科 書	20 Medical Dialogs, by Koga, Taruishi & Spoga, 鷹書房弓プレス
参 考 書	辞書類，たとえばジーニアス英和辞典（大修館），看護英和辞典（医学書院）

授業科目名	ステップアップ英語	単位認定者	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	プリントにより進める。講義と受講者の授業参加。
科目の目的	専門分野の文献が読める力の強化。将来の進学や就職に備えて読解力、リスニング力の強化。
学習到達目標	専門分野の英語文献が正しく理解できる。英語専門用語の定着。リスニング力の向上。
関連科目	【関連する教養科目】 総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 英語表現 広くは理学療法に関する科目全般に関連する
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
2	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
3	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
4	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
5	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
6	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
7	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
8	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFL のリスニング問題	
9	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFL のリスニング問題	
10	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFL のリスニング問題	
11	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFL のリスニング問題	
12	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 英検2級程度リスニング問題	
13	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 英検2級程度リスニング問題	
14	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 英検2級程度リスニング問題	
15	まとめ		

教科書	プリントを使用する。
参考書	英和辞書

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義、グループでの会話練習等。
科 目 の 目 的	「読む、書く、聞く、話す」の四能力のうち、特に「聞く、話す」に重点を置きながら、日常会話ができる語学力を習得させる。また、中国語学習を通じて、中国の社会状況、地理、文化、歴史、生活習慣などを理解する。多文化多言語が共生する現代社会の中で、一国際人として、それに適応できる語学力を身につけたい。
学 習 到 達 目 標	中国語の難関は発音と四声である。それを習得するには、毎日の練習と個々の指導が不可欠である。テキストの例文を使って、文法形態を理解してもらおう。また日本語と違うところも判ってもらおう。会話を中心に楽しく勉強できる雰囲気を作り、日常会話ができる基礎づくりを目標とします。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	学期末に筆記試験を行う。出席数、受講時の学力と試験成績を参考の上、成績を評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	発音の基本	1. ガイダンス、母音、四声	
2	発音練習	2. 母音、子音、四声	
3	発音練習	3. 音節表の読む練習	
4	レッスン 1, 2	4. 挨拶、自己紹介	
5	レッスン 3, 4, 5	5. 数字、曜日	
6	レッスン 6, 7	6. 時刻、月日	
7	日常会話 1,	7. 動詞「是」の用法	
8	日常会話 2	8. 指示詞と疑問詞	
9	日常会話 3, 4	9. 副詞	
10	日常会話 5, 6	10. 動詞「有」の用法	
11	日常会話 7	11. 動詞「在」の用法	
12	日常会話 8	12. 年齢の尋ね方	
13	日常会話 9	13. 値段の尋ね方	
14	日常会話 10	14. 形容詞の表現	
15	期末テスト	15. テスト	

教 科 書	「いちばんわかりやすい基本の中国語」伊藤醇（成美堂）
参 考 書	

授業科目名	コリア語	単位認定者	金子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	コリア語の基礎を学ぶとともに、韓国の社会や文化への理解を深める。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。</li> <li>・正確な発音をマスターする。</li> <li>・あいさつをはじめ、身近で簡単な日常会話を身につける。</li> </ul>
関連科目	国際関係論
成績評価方法	定期試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	ガイダンス	<p>コリア語は言語構造が日本語と非常によく似ていることから学びやすい言語といえる。しかし、表記された文字と実際の発音が異なることも多いため、正確な発音を習得するまでには少々時間を要する。そこで、発音の練習を徹底的に行いながら、基本文法や語彙、会話を体系的に学んでいく。</p> <p>前半は読む力・書く力を養うとともに、身近で簡単な日常会話を身につけていく。後半には映画を鑑賞することを通して、聞く力を養っていく。おりにふれて、韓国の社会や文化についてビデオを通して学ぶ。</p> <p>&lt;文字と発音&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コリア語に関する基礎知識：ハングルとは？</li> <li>・基本母音字・基本子音字：発音練習</li> <li>・合成母音字：発音練習</li> <li>・パッチム：発音練習</li> <li>・映像資料を通して韓国文化を学ぶ</li> </ul> <p>&lt;文法と会話&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介に関する表現 「～は～です」</li> <li>・物や人について尋ねる表現 「～は～ですか」</li> <li>・場所・持ち物に関する表現 「あります・います/ありません・いません」</li> <li>・日常生活・習慣に関する表現 「します、しません」</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国映画を通して聞き取り練習</li> <li>・筆記試験</li> </ul>	
2	基本母音・基本子音		
3	合成母音		
4	パッチム		
5	韓国の文化紹介		
6	第1課 (1)(2)		
7	第1課 (3)(4)		
8	第2課 (1)(2)		
9	第2課 (3)(4)		
10	第3課 (1)(2)		
11	第3課 (3)(4)		
12	第4課 (1)(2)		
13	第4課 (3)(4)(5)		
14	ヒアリング		
15	定期試験		

教科書	「よくわかる韓国語 STEP 」 入佐信宏・文賢珠 著 (白帝社) CD付
参考書	「携帯版 韓国語会話とっさのひとこと辞典」 金裕鴻 著 (DHC刊)

授業科目名	個人・家族と生活	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	職業、家族、生活に関する見識を肥やし、自身の人生、および人生・生活を負った存在である対象者と家族のトータルなアセスメントに基づく医療サービスの提供を可能にする基礎的力量を形成する
学習到達目標	1. 家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自身の今後、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる
関連科目	【関連し合う教養科目】 個人・家族と社会 地域社会学 法学
成績評価方法	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果に出席をはじめとする平常点を加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 日本における家族の近代化	
2	家族をとらえる(2)	家族と世帯、世帯の動向、家族周期、家族過程における多元的時間、家族の発達と個人のライフコース	
3	家族をとらえる(3)	家族の各発達段階のライフタスク - 夫婦と子どもから成る家族の場合：家族形成期、子産み・子育て期、子どもの思春期、子どもが巣立つ時期、加齢と配偶者の死の時期	
4	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生活保障の第一側面：家事労働 労働力再生産労働 家事労働の2種類 家事労働のこれまでとこれから	
5	家族の機能(2)	生活保障の第二側面：就労による家族の経済基盤の確保 共働き家族	
6	家族の機能(3)	生活保障の第三側面：感情機能 家族と地域社会 国際家族年に示された家族の理念と家族のゆくえ	
7	家族をめぐる制度(1)	民法第四編 親族 親族 婚姻	
8	家族をめぐる制度(2)	民法第四編 親族 親子 後見 民法第五編 相続	
9	家族をめぐる制度(3)	戦前明治民法における「家」制度 「家」制度 明治政府はなぜ「家」制度を採ったのか 戸主と家族 「家」の世代的継続の象徴 - 氏と墓	
10	家族をめぐる制度(4)	“夫婦別姓”とはどういう問題か 現行民法において氏とは何か 民法 750 条をめぐる問い 模索されている案	
11	家庭経済(1)	家庭経済内部の4つの活動とその循環 稼得：収入と所得、所得の種類、賃金とその内訳	
12	家庭経済(2)	モノの購入 - 家計支出、家計支出の内訳、家事労働：消費と労働力の再生産、家事労働の種類、貯蓄：貯蓄の意味、種類	
13	生活習慣(1)	生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ、家族と生活習慣 食生活	
14	生活習慣(2)	家族と生活習慣 喫煙、飲酒	
15	まとめ	まとめ	

教科書	プリントによる
参考書	「21世紀家族へ 家族の戦後体制の見かた・超えかた」落合恵美子(有斐閣)2004 「迷走する家族 戦後家族のモデルの形成と解体」山田昌弘(有斐閣)2005 「DV防止とこれからの被害当支援」戒能民江(ミネルヴァ書房)2006 「児童虐待」川崎二三彦(岩波新書)2006 「系統看護学講座 別巻15 家族論・家族関係論」(医学書院)2004 「雇用流動化のなかの家族」船橋恵子他(ミネルヴァ書房)2008

授業科目名	個人・家族と社会	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	社会的慣習・慣行(慣習上の制度)・通念と個人や家族のありようの相互関係を考えられるようになる
学習到達目標	1.日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる 2.1のような従来の慣習・通念にどのような問題があったのかが理解できるー「性別」を切り口に 3.2.のような問題を乗り越えた、より公正で、どのような人にもより生きやすい社会の姿を認識できるー「性別」を切り口に 4.3.のような社会へと向かうなかで社会人・生活者・市民となっていく自分自身の生き方をより具体的に考えることができるー「性別」を切り口に
関連科目	個人・家族と生活
成績評価方法	講義を踏まえ、主に、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席点を加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	社会的慣習・慣行・通念、社会構造	社会的慣習・慣行・通念、社会構造 社会的慣習・慣行・通念、社会構造と個人の関係	
2	慣習慣行通念、構造を読み解くー性別を切り口に(1)	社会構造としての2つの性別分業 第1の性別分業：社会的労働と私的労働	
3	慣習慣行通念、構造を読み解くー性別を切り口に(2)	第1の性別分業：社会的労働と私的労働(続)	
4	慣習慣行通念、構造を読み解くー性別を切り口に(3)	第2の性別分業：社会的労働の中の性別分業(基幹労働と周辺労働)、2つの性別分業の関係	
5	慣習慣行通念、構造が生んできた問題をつめる(1)	一次生産物次元の問題：経済力と意思決定の男性への偏り、二次生産物次元の問題：女性問題 女性に対する暴力、とくにDVを具体例として(1)	
6	慣習慣行通念、構造が生んできた問題をつめる(2)	二次生産物次元の問題：女性問題 女性に対する暴力を例にDV(1)	
7	慣習慣行通念、構造が生んできた問題をつめる(3)	二次生産物次元の問題：女性問題 女性に対する暴力を例にDV(2)	
8	慣習慣行通念、構造が生んできた問題をつめる(4)	ハラスメント	
9	慣習慣行通念、構造が生んできた問題をつめる(5)	児童虐待を理解する	
10	慣習慣行通念、構造が生んできた問題をつめる(6)	児童虐待の防止・対応	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
11	慣習・行通念の流動化と公正な社会の追求(1)	国連女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法、性別について公正な社会の姿(1)	
12	慣習・行通念の流動化と公正な社会の追求(2)	性別について公正な社会の姿(2)、社会的労働と私的労働のゆくえ	
13	ワークライフバランス(1)	ワークライフバランスの考え方、ワークライフバランスの取り組み	
14	ワークライフバランス(2)	子育てをめぐって	
15	まとめ	まとめ	

教科書	使用しない(プリントによる)
参考書	内閣府「男女共同参画白書 平成21年度版」



授業科目名	ボランティア活動論	単位認定者	竹澤泰子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義 実践
科目の目的	ボランティアとは何か。ボランティア活動実施における問題点。ボランティア活動と心の交流。
学習到達目標	ボランティアについての基本概念とその歴史を修得。 ボランティア活動を国内のみならず国際的な見地からもながめ、現在行われている活動を調査・理解する。そして将来のボランティア活動参加意欲を育てる。
関連科目	
成績評価方法	定期試験。テーマ毎に行うグループプレゼンテーションとそのレポート。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法学科
1	ボランティアとは エゴグラムテスト	学生に「ボランティア」についてのディフィニションを問う エゴグラムテストにより自己分析・認識をする。 ボランティア活動のみならず将来の職業においても必要である	
2	ボランティア活動	講師の30年間のボランティア活動(日本と米国)	
3	ボランティアの歴史	ボランティア活動の歴史概論	
4	ボランティア活動の経験談	少年院に勤務していた関口晋氏の「群馬友の会」について聞く 竹澤同席	
5	ボランティア活動経験談	NPO あかね工房理事長小柏桂子氏「ダウン症者との関わり」について 竹澤同席	
6	ボランティア活動経験談	NPO ぶどうの木施設長森村氏の障害児の教育についての話と森村大地氏(息障害を持つ方)のサクセス演奏 竹澤同席	
7	ボランティア活動のプレゼンテーションの調査開始	国内外のボランティア活動の一つ取り上げて、グループで調査、発表の準備開始	
8	同上	グループ毎に現行のボランティア活動を調査する前に、調査の仕方・調査の論点がずれていないかを確認 自分の意見を持ち、聞き手に理解させる話方の訓練。 学生同志発表を採点する。質疑応答	
9	同上	同上	
10	ボランティアの調査並びにプレゼンテーション	各グループで調査しまとめたことを発表する	
11	同上	同上	
12	同上	同上	
13	ボランティアについて	国際問題研究所所長太田敬雄氏 大学生とボランティアについての話 太田氏単身で講義 7月14日	
14	レポートの書き方	調査・学習したことについてのまとめの指導 ボランティアについての意見交換	
15	期末試験	レポート提出	

教科書	
参考書	「ボランティアという人間関係」原田隆司(世界思想社) シリーズ福祉のこころ1, 社福祉の心、2 障害ってなんだろう、3 老いのものがたり、4 きみの心のサポーター 5 命のあかりを求めて 旬報者

授 業 科 目 名	法 学 ( 医 療 法 規 含 )	単 位 認 定 者	齋 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	基本的人権・民主主義・平和といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。 法的観点から医療を考える。
学 習 到 達 目 標	政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長する。あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつける。法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。 理学療法士の資格と業務、業務の法律上の位置づけ、およびそれらと関連する他法規の事項を理解する。また、医療に関わる問題を法的側面から考える力をつける。
関 連 科 目	経済学・個人家族と生活・個人家族と社会・教育学・理学療法概論
成 績 評 価 方 法	論述中心の筆記試験により評価する。自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうかを、評価の基準とする。なお、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなし、評価の対象としない。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	序論	憲法・法律の役割	
2	人権(1)	人権とは何か	
3	人権(2)	家族と人権	
4	人権(3)	労働と人権	
5	民主主義(1)	選挙と民主主義	
6	民主主義(2)	表現の自由と民主主義	
7	平和	憲法9条の考え方	
8	医療関係法規(1)	理学療法士・作業療法士法	
9	医療関係法規(2)	保健師助産師看護師法と医師法 - 定義, 免許, 業務	
10	医療関係法規(3)	医療法 - 医療提供の理念、医療提供施設の種類と定義、医療提供に関する情報と安全管理	
11	医療関係法規(4)	医療法 - 病床の種別、医療提供施設各論、公共医療、医療法人	
12	医療に関わる法律問題(1)	医療と自己決定	
13	医療に関わる法律問題(2)	医療と自己決定	
14	医療に関わる法律問題(3)	医療従事者の労働条件	
15	まとめ		
	各回の授業内容と順番は、変更することがある。		

教 科 書	使用しない。
参 考 書	森英樹『新版 主権者はきみだ - 憲法のわかる50話 - 』岩波ジュニア新書

授 業 科 目 名	経 済 学	単 位 認 定 者	飯 島 正 義
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義形式。
科 目 の 目 的	経済学は私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにし、その知識を私たちの経済生活に活かしていくことを目的とした学問である。したがって、経済学が明らかにしようとしているのは私たちの経済生活そのものであり、実践的な学問でもある。
学 習 到 達 目 標	1. まず経済の基礎理論を理解できるようにする。 2. その上で現実の経済現象を理解できるようにする。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	平常点（出欠席や学習態度）、授業中に行う確認、学期末試験で総合的に評価する（絶対評価）。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	経済学とは何か	経済学は何を明らかにする学問か	
2	経済学の歴史（1）	古典学派	
3	経済学の歴史（2）	新古典派	
4	経済学の歴史（3）	ケインズ経済学	
5	ミクロ経済学（1）	経済の3主体と国民経済	
6	ミクロ経済学（2）	市場メカニズム	
7	ミクロ経済学（3）	市場の失敗と政府の役割	
8	マクロ経済学（1）	国内総生産（GDP）	
9	マクロ経済学（2）	経済成長	
10	マクロ経済学（3）	景気変動	
11	マクロ経済学（4）	貿易と国際収支	
12	マクロ経済学（5）	為替レート	
13	経済統計を読む（1）	景気指標を読む	
14	経済統計を読む（2）	GDPの需要項目に沿って日本経済を見る	
15	まとめ	これまでのまとめ	

教 科 書	使用せず
参 考 書	必要に応じて紹介する。

授業科目名	環 境 学	単 位 認 定 者	西 園 大 実
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1 環境問題の背景と発生原因への理解 2 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	定期試験(80%)、出席・受講状況(20%)

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	環境とは	環境問題の範囲と背景	
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち	
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源	
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷	
5	典型七公害	足尾鉍毒、水俣病、イタイイタイ病	
6	酸性雨	燃焼生成物、硫酸・硝酸の生成	
7	オゾン層破壊	オゾン破壊物質、オゾン層の状況と見通し	
8	地球温暖化( )	温室効果ガス、気候変動の状況と見通し、対策	
9	地球温暖化( )	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任	
10	エネルギー問題	日本の1次エネルギー現状、再生可能エネルギー	
11	廃棄物問題( )	一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物	
12	食料生産と環境	食料生産の現状、窒素循環、フードマイレージ	
13	循環型社会	3R、熱回収、適正処分	
14	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり	
15	試験	筆記試験	

教 科 書	使用せず
参 考 書	「平成20年版環境循環型社会白書」環境省編(ぎょうせい)

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科 目 の 目 的	Word、PowerPoint 等を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学 習 到 達 目 標	Word、PowerPoint 等を使用して、レポート、研究発表等の種々の文書作成やプレゼンテーションなどが円滑に実行できるようにする。
関 連 科 目	「情報処理」(後期)...「情報処理 (前期)」「情報処理 (後期)」を連続して受講することが望ましい。
成 績 評 価 方 法	試験・課題発表・出席状況等を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネット	コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネットの基礎的内容を指導する	
2	データの電子化、個人情報の秘密保持	データの電子化、個人情報の秘密保持の基礎知識について指導する	
3	Windows と Word 入門	Windows と Word の基礎的事項を指導する	
4	文字入力	Word を使った文字入力を指導する	
5	文書入力、文書の作成	簡単な文書作成を指導する	
6	文書の訂正、修正	文書の訂正・修正等について指導する	
7	文書の編集	文書の編集(削除、挿入など)を指導する	
8	文書と表の結合	文書中に表を挿入することを指導する	
9	データベース、レコードリンケージ	データベース、レコードリンケージについて指導する	
10	ビジュアルな文書の作成	ビジュアル化によって、見やすく分かりやすい文書の作成を指導する	
11	PowerPoint の基礎	PowerPoint の基礎的事項を指導する	
12	プレゼンテーションの基本事項 プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの基本事項・留意事項を指導する 具体的なプレゼンテーションのスライドの作成を指導する	
13	課題発表	各受講生が独自に調べた内容を、PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う	
14	課題発表	各受講生が独自に調べた内容を、PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う	
15	試験	試験を実施する	

教 科 書	「30 時間でマスターWindowsVista 対応 Word2007」実教出版編修部編(実教出版) 「30 時間でマスターVista 対応プレゼンテーション+PowerPoint2007」実教出版編修部編(実教出版)
参 考 書	

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果をPowerPoint を用いてプレゼンテーションできるようにする。
関 連 科 目	「情報処理」(前期)...「情報処理 (前期)」「情報処理 (後期)」を連続して受講することが望ましい。
成 績 評 価 方 法	試験・課題発表・出席状況等を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	統計学の基礎	統計学の歴史について指導する	
2	統計学の基礎	統計学の基本的事項について指導する	
3	Excel の基本	Excel の基本的事項について指導する	
4	合計、平均の計算	種々のデータの合計、平均の求め方について指導する	
5	関数の活用	Excel 内の種々の関数について指導する	
6	最大・最小	種々のデータの最大値・最小値の求め方について指導する	
7	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する	
8	グラフ作成	種々のデータのグラフの描き方について指導する	
9	様々なグラフ	種々のグラフの描き方等について指導する	
10	データベースの基本事項 データのソート、検索、集計	種々のデータのデータベース作成について指導する	
11	Word への Excel の埋め込み	種々のデータのソート、検索、集計の方法を指導する	
12	Word への Excel のリンク埋め込み	Word への Excel の埋め込みについて指導する	
13	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う	
14	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う	
15	試験	試験を実施する	

教 科 書	「30時間でマスター WindowsVista 対応 Excel2007」実教出版編修部編（実教出版）
参 考 書	

授業科目名	生活の中の数学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	選択

指導方法	毎回、講義内容に関連する内容のプリントを配布し、解説する。簡単な問題をその場で考えて解く。
科目の目的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を学び、将来、理学療法士として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。
学習到達目標	1. 基礎的な数学の概念の復習をする。2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。
関連科目	
成績評価方法	筆記試験。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	数と式	多項式の四則演算を復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを促す。	
2	方程式と不等式	1次不等式、2次方程式の復習をする。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。	
3	2次関数	関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で定量的なセンスを発揮することを促す。	
4	図形と計量	三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを考える。	
5	個数の処理	集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを応用、活用することを考える。	
6	確率	事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。	
7	論理と命題	命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。	
8	平面図形	平面図形の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。	

教科書	なし
参考書	なし

授業科目名	大学の学び入門	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習、学習記録・生活記録の記入作成提出、グループワーク
科目の目的	高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行する 1. 自立した人間になっていくために必要な知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけそれを解決していく大学の学習へ 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活へ
学習到達目標	1. 高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違いを理解する、 2. 大学での学習に必要な、基本的な学習習慣・学習技術(アカデミック・スキル)を高める、 3. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、人間関係能力を高める(スチューデント・スキル)
関連科目	理学療法概論、理学療法セミナー
成績評価方法	出席状況、提出状況による単位認定

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	科目の説明、大学生の学習・生活	科目の目的・目標・進め方の説明、学習記録と生活記録高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い	
2	総長特別講義	「群馬パース大学の伝統をつくる」	
3	アカデミック・スキルとスチューデント・スキル	アカデミック・スキルー“自ら課題を見つけそれを解決していく力”の構成要素、スチューデント・スキルー時間管理を中心とする生活管理、人と関わる力	
4	課題を立てる	前回授業を踏まえたグループワーク 学習、生活両面の自己課題を整理し、課題シートに記入する	
5	アカデミック・スキルを磨く(1)聞く	授業を受ける、ノートを取る、復習とは何をすることか	
6	アカデミック・スキルを磨く(2)読む	本や資料を読む	
7	アカデミック・スキルを磨く(3)調べる	情報の探し方	
8	アカデミック・スキルを磨く(4)考える	15分読書 課題を見出す、解決の筋道を組み立てる、論理を組み立てる	
9	学習記録・生活記録を振り返る	15分読書 学習記録・生活記録を振り返る	
10	アカデミック・スキルを磨く(5)書く	15分読書 レポートの書き方：その1	
11	アカデミック・スキルを磨く(6)書く	15分読書 レポートの書き方：その2	



回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
12	アカデミック・スキルを磨く(7)書く	15分読書 例題レポートの作成: その1	
13	アカデミック・スキルを磨く(8)書く	15分読書 例題レポートの作成: その2	
14	アカデミック&チューデント・スキル: 話す、話し合う	話す、総合力としての「話し合う力」	
15	まとめ	まとめ	

教科書	使用しない(プリント、ワークシート、学習記録・生活記録)
参考書	玉川大学コア・FYE教育センター「大学生生活ナビ」玉川大学出版部、2006 天野明弘・太田勲他「スタディ・スキル入門」有斐閣、2008 早川修「大学生諸君! - 今求められる問題解決力 - 」流通経済大学出版会、2008 学習技術研究会「知へのステップ」くろしお出版 木下 是雄「理科系の作文技術」中公新書、1981

授業科目名	生 物 学	単 位 認 定 者	佐 藤 久 美 子
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	高等学校までの生物学の学習と、理学療法学の専門教育をつなぐために、生命現象と生体機能の基礎的理解を深めることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	以下3事項について正確に理解する 1. 生体構成成分 2. 細胞の構造と機能 3. 遺伝現象
関 連 科 目	生理学、生化学
成 績 評 価 方 法	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果に出席をはじめとする平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	生物学概説 生体構成成分 - その1 -	生物学はどのように発展し現在に至ったのか、生物学の研究対象や方法、「生命現象の特質」について述べる。 また、水と生命との関わり、及び生体を構成する高分子炭素化合物の中で重要な機能を持つタンパク質の構成単位、構造や機能について解説する。		
2	生体構成成分 - その2 -	遺伝物質である核酸の構成単位、構造などについて学ぶ。また、脂質、糖などの構造（構成単位、基本構造）、機能、種類などについて学び、無機質についても、その種類や役割などを述べる。		
3	原核細胞と真核細胞 真核細胞 - その1 - 細胞膜と細胞質基質	細胞の形態（大きさや形など）、細胞の研究方法について概説する。続いて原核細胞の内部構造（細胞膜の構造と機能、核様体、リボゾームなど）について学ぶ。次に、真核細胞について、細胞膜の構造と働き、細胞膜を介した物質の輸送、グリコカリックス（糖衣）の役割及び細胞質基質内において行われている種々の物質の合成、分解反応などについて学ぶ。		
4	真核細胞 - その2 - 細胞内小器官の働き	粗面小胞体と滑面小胞体の構造、それぞれの機能、両者の関係及粗面小胞体上で合成される蛋白質の特徴などについて学ぶ。次にゴルジ体の構造と機能、小胞体とゴルジ体の関係、ゴルジ体の役割について、続いてリソゾームの形成過程と種類、リソゾームに含まれる酵素の特徴、細胞内で果たす役割について解説する。また、ペルオキシソームとその中に含まれる酵素の性状を学ぶ。		
5	真核細胞 - その3 - ミトコンドリアとエネルギー代謝、葉緑体と光合成	エネルギー製造工場であるミトコンドリア内で起こっている反応（解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生）や、その結果生ずるエネルギーの行方について学ぶ。また、色素体、葉緑体の構造と機能について解説する。光合成における光エネルギーの捕捉の機構、それに引き続く炭酸同化作用のメカニズム、C3植物とC4植物について、また細胞骨格とその役割について解説する。		
6	中間テスト 真核細胞 - その4 - 細胞骨格、核の構造と働き	1回～5回までの内容についてテストで確認する。 核の構成成分、核膜や仁の構造とはたらきについて学ぶ。また、細胞の種類に応じた核の形態変化や機能の変化を解説する。		
7	細胞分裂と細胞周期 - その1 -	体細胞で見られる細胞分裂（体細胞分裂）と配偶子を形成する過程で見られる減数分裂の違いを述べ、細胞周期の概念、増殖周期と成長周期の特徴について概説する。また、細胞周期S期に起こる細胞内の変化について学ぶ。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
8	細胞分裂と細胞周期 - その2 - 細胞の死 アポトーシス	細胞周期の G2 期、M 期、G1 期にみられる構造の変化や物質合成、中心体の分裂、染色体の変化などについて学ぶ。また、G1 期の細胞の特徴を機能分化と限界点に焦点をあてて解説する。各組織の細胞と増殖速度についても学ぶ。 細胞は、種々の物理的要因や病原体の感染などにより、死滅するが、一方、遺伝子レベルで予め予定されたアポトーシスと呼ばれる細胞死の機構があり、細胞の増殖とアポトーシスとのバランスとのバランスによって多細胞体の体制はコントロールされている。その機構を学ぶ。		
9	生命の自己増殖 - 遺伝子の本体 DNA とその複製 染色体の構造	遺伝子の本体 DNA について学ぶ。また、DNA 複製機構 (DNA の開裂、プライマーの形成、リーディング鎖とラギング鎖、岡崎ピースと DNA ポリメラーゼ、DNA リガーゼの役割など) 最新の情報を含め解説する。 染色体の構造について、染色糸から染色体への構造の変化、核内に多量にみられる塩基性タンパク質、ヒストンの役割などに焦点をあてる。また真核細胞の遺伝情報発現と染色体構造との関係についても解説する。		
10	遺伝情報の発現 - その1 -	遺伝情報発現の機構について学ぶ。原核細胞と真核細胞における情報発現機構の相違について学び、その意味することについて考察する。また、真核細胞の遺伝情報発現の過程 (DNA-hnRNA-プロセッシング-mRNA の順に遺伝情報が塩基配列が転写され、鋳型ができる過程、それに引き続くリボソーム上でのタンパク質のアミノ酸配列翻訳過程) を学ぶ。		
11	遺伝情報の発現 - その2 - 環境と遺伝毒物	遺伝子発現のコントロール機構について学ぶ。原核生物と真核生物における情報発現コントロール機構の違い、特定の時期 (環境) に特定の遺伝子が発現する機構 (あるいは発現しない機構) について述べる。 放射線、化学薬品、食物添加物、化粧品等が DNA を損傷する機構や修復機構、また、損傷によって具体的影響等を解説する。		
12	ヒトの遺伝 - その1 - 形質の遺伝	メンデルの遺伝の法則、第1法則、分離の法則と第2法則、独立遺伝の法則及び優劣の法則について学ぶ。また、遺伝子型と表現型について実例により考えてみる。主遺伝子によって支配される正常形質の代表として血液型の遺伝を、また複数の遺伝子と環境要因がかかわる多因子によって支配される正常形質として血清コレステロール値の遺伝を取り上げる。		
13	ヒトの遺伝 - その2 - 遺伝子の変化に伴う遺伝病、ヒトの遺伝子プールと遺伝病発現頻度化	ヒトの常染色体性優性遺伝病と劣性遺伝病発現について学ぶ。次の常染色体上の遺伝子異常が引き起こす遺伝病のうち、代表的なものを2, 3とりあげて解説する。また、伴性遺伝病の定義、X連鎖劣性遺伝病とX連鎖優性遺伝病について、家系図における具体的な現れ方を検証する。 メンデルのモデル集団の成立する要件を解説する。また、ハーデイ・ワインベルグの法則を学び、それを利用してわれわれの身近にある遺伝病やヒトの血液型などの遺伝子頻度を算出してみる。		
14	ヒトの遺伝 - その3 - ヒトの染色体とその異常症、および先天異常、遺伝相談と倫理	ヒトの染色体の形態、分類、染色体解析の方法、染色体異常の生ずる原因などについて概説したのち、染色体異常による疾病の種類と特徴について学ぶ。また、発生過程での形態形成異常や出生前診断の方法やその適応症例について解説する。ヒトに性染色体の異常が生じるとどのような結果をもたらすか、また、具体的な性染色体異常の病態や発現頻度について学ぶ。		
15	まとめ	まとめ		

教科書	はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学 前野正夫・磯川桂太郎著 羊土社
参考書	高校で生物を受講しなかった人へ 生物図録 数研出版 総合図説生物 田中隆荘・田村道夫・田中昭男監修 第一学習社

授業科目名	化学	単位認定者	西園大実
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	化学は基幹学問の一部を形成しており、医学との関連も深く密着している。高校化学を学ばなかった学生に対しても、理学療法士に必要な化学の基本を学ぶように進める。
学習到達目標	医学に重要な生理学や医薬品の特質を深く理解できるようになる。また、専門職としての技能向上だけでなく、健康な生活をおくることの手助けとして、化学的理解が役立てられる。
関連科目	
成績評価方法	定期試験(80%)、出席・受講状況(20%)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	物質の成り立ち	物質は何からできているか	
2	物質の成り立ち	元素、原子と分子	
3	物質の変化	化学反応、燃焼とはなにか	
4	物質の変化	酸化還元、エネルギーの出入り	
5	物質の状態	固体・液体・気体	
6	物質の状態	溶液、コロイド、イオン	
7	有機化合物	炭素の性質、炭化水素	
8	有機化合物	アルコール、有機酸、有機塩基	
9	高分子化合物	炭水化物、脂質	
10	高分子化合物	タンパク質	
11	高分子化合物	核酸と遺伝子	
12	生命と化学	生体高分子、酵素	
13	医薬品とは何か	生体に作用する物質	
14	医薬品とは何か	医薬品になるもの	
15	試験	試験	

教科書	「食を中心とした化学」【第3版】東京化学社
参考書	

授 業 科 目 名	物 理 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演 示 実 験 ・ 講 義
科 目 の 目 的	高等学校で物理関係の科目を履修していない学生を想定し、理学療法士として最小限必要な物理学の教養を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	物理現象を分析的に追究し、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 古典的な物理現象について、定量的・数学的に解釈し、処理することができるようにする。
関 連 科 目	運動学 物理療法学など
成 績 評 価 方 法	定期試験等により、物理学の基本的な概念、原理、法則について理解の程度を評価する。 中間レポート等により、物理事象への興味・関心の広がりや深まりを評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	物理学とは	物理量と単位 質量・距離・時間・・・ 速度と加速度 ベクトル・微分・・・	
2	力学	運動の法則	
3		つりあい・力・万有引力・重力の加速度	
4		力積・運動量・運動量保存の法則・・・	
5		エネルギー保存の法則	
5		回転運動と剛体の力学	
6	熱力学	気体分子の運動 熱と温度・・・	
7		ボイル・シャルルの法則	
8			
9	波	波 水の波・音・・・	
10		光	
11	電磁気学	電気、磁気	
12		電流と磁界 電磁誘導・・・	
13		電磁波 放射線・・・	
14	現代物理学入門	スペクトル 原子の構造 核分裂・核融合・・・	
15	定期試験		

教 科 書	「ゼロから学ぶ物理のことば」小暮陽三（講談社）
参 考 書	「基礎からの物理学」原 康夫（学術図書出版社）

授業科目名	解剖学	単位認定者	内藤延子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・骨実習 【骨実習は、講義時間外に各自で行う。骨標本の全ての骨について、形態的な特徴をスケッチする】
科目の目的	理学療法を学ぶための最も基本的な知識である人体の構造を学ぶ。安静にしている時・動いている時、身体はどこが、どのように働いているのかに注目して、骨格系、筋系、脈管系、神経系が複合的に作用していることを学習していく。
学習到達目標	1、人体の基本的な構造を説明できる。 2、理学療法を学ぶための基礎知識としての解剖学を習得している。 3、疾患、病態との関係を説明できる。
関連科目	解剖学Ⅱ 生理学 運動生理学 運動学 各臨床科目
成績評価方法	骨実習レポート(4-5月提出) 中間試験(3回) 定期試験(1回)で評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	解剖学概説	解剖学とは何か、どのようなことを学ぶか。	-1.解剖学 A 総論 a 定義、目的、分類 b 細胞と組織 C 形態発生 B 骨格系 a 骨の構造と分類 b 関節の構造と分類 C 各部の骨、靭帯、間接 C 筋系 a 筋の構造と形態、作用 b 各部の筋、腱 D 神経系 a 中枢神経系 b 末梢神経系 E 脈管系 a 心臓 b 動脈系 C 静脈系 d リンパ系
2	骨格系 1	体表から触知できる骨格系とは?	
3	骨格系 2	上肢(上肢帯・上腕・前腕・手)の骨格と連結	
4	骨格系 3	下肢(下肢帯・大腿・下腿・足)の骨格と連結	
5	骨格系 4	脊柱・胸郭・頭蓋の骨格と連結	
6	骨格系 5	骨組織、軟骨組織、骨発生・骨の成長	
7	中間試験-1、筋系 1	中間試験(30分) 筋組織、骨と筋の関係	
8	筋系 2	上肢の筋-上肢帯・上腕	
9	筋系 3	上肢の筋-前腕・手の筋	
10	筋系 4	下肢の筋-下肢帯・大腿	
11	筋系 5	下肢の筋-下腿・足の筋	
12	筋系 6	体幹の筋 陶胸壁・腹壁・固有背筋・骨盤底筋	
13	中間試験-2、筋系 7	中間試験(50分) 頭頸部の筋、顔面の筋	
14	脈管系 1	心臓：心臓の構造、心臓の自律性と刺激伝導系	
15	脈管系 2	循環系の概念：動脈系-毛細血管-静脈系	
16	脈管系 3	全身の動脈系・静脈系	
17	脈管系 4	小テスト-動脈系・静脈系； 上肢の動脈系・静脈系、	
18	脈管系 5	下肢の動脈系・静脈系	
19	脈管系 6	頭頸部の動脈系、脳の動脈系、脳の硬膜静脈洞	
20	脈管系 7	リンパ系・造血器官	
21	中間試験-3、神経 1	中間試験(30分) 神経系の構成	
22	神経系 2	脳と脊髄、自律神経系	
23	神経系 3	脳神経 頭頸部の機能との関連	
24	神経系 4	脊髄神経- 支配領域、デルマトーム	
25	神経系 5	上肢の筋と支配神経(腕神経叢)	
26	神経系 6	下肢の筋と支配神経(腰・仙骨神経叢)	
27	神経系 7	大脳皮質の機能局在、下行伝導路	
28	神経系 8	上行伝導路、視床	
29	神経系 9	脳血管障害、脊髄損傷と四肢麻痺との関連	
30	定期試験	全範囲	

教科書	解剖学講義 伊藤 隆 南山堂 ネッター解剖学アトラス (訳)相磯貞和 南江堂
参考書	イラスト解剖学 松村 譲児 中外医学社, カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで (訳監修)井上貴央 西村書店

授業科目名	解剖学	単位認定者	小林 寛
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	解剖学を補追する。
学習到達目標	循環器、内臓、感覚器、皮膚に関する基本を習得させる。
関連科目	解剖学、生理学、解剖学実習
成績評価方法	試験で評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	循環器系	心臓	-1.解剖学 E 脈管系 a 心臓 b 動脈系 c 静脈系 d リンパ系 F 内蔵諸器官 a 消化器 b 呼吸器 c 泌尿・生殖器 d 内分泌腺 G 感覚器
2		動脈系	
3		静脈系、胎生期の循環器系	
4		リンパ系	
5	内臓学	消化器系(口腔～大腸)	
6		消化器系(肝臓、胆嚢、膵臓)	
7		呼吸器系	
8		泌尿器系	
9		男性生殖器	
10		女性生殖器	
11		内分泌系	
12	感覚器系	外皮	
13		視覚器	
14		平衡聴覚器	
15		嗅覚器、味覚器、まとめ	

教科書	解剖学講義 伊藤隆 高野廣子 南山堂
参考書	

授業科目名	表面解剖学と触診法	単位認定者	高橋正明
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	演習形式で授業を進める。
科目の目的	理学療法士は運動器および運動機能の障害についての専門家である。その専門性を4年かけて学ぶわけであるが、その中の技術領域において最初に習得すべきことが体表解剖の知識と身体部位を体表面から触知できる能力であり、その修得がこの科目の目的とするところである。また、運動学と同時並行で授業をすすめ、人の運動を可能にする構造と機能の関連をより深くかつ実際に理解できるようになることも目的である。
学習到達目標	1. 骨の部位、関節裂隙、靭帯、筋、腱、動脈を触知により区別できる。 2. 体表から触れることができるそれらの部位を解剖学アトラスで参照できる。 3. それらについて名称を言うことができる。
関連科目	関連し合う科目 - 解剖学 解剖学 運動学 この科目が基礎となる科目 - 全ての専門科目
成績評価方法	実技試験，授業での提出物，小テスト．授業への出欠，演習参加への積極性を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション	オリエンテーション	-1. 解剖学 H. 体表解剖
	足部	足部の体表解剖演習と触診実習	
2	下腿	下腿の体表解剖演習と触診実習	
3	膝	膝の体表解剖演習と触診実習	
4	膝	膝の体表解剖演習と触診実習	
5	大腿	大腿の体表解剖演習と触診実習	
6	骨盤	骨盤の体表解剖演習と触診実習	
7	骨盤	骨盤の体表解剖演習と触診実習	
8	体幹	体幹の体表解剖演習と触診実習	
9	頭・頸部	頭・頸の体表解剖演習と触診実習	
10	肩甲帯	肩甲帯の体表解剖演習と触診実習	
11	肩甲帯・上腕	肩甲帯・上腕の体表解剖演習と触診実習	
12	肘・前腕	肘・前腕の体表解剖演習と触診実習	
13	前腕	前腕の体表解剖演習と触診実習	
14	手・指	手・指の体表解剖演習と触診実習	
15	手・指	手・指の体表解剖演習と触診実習	
	試験	実技試験	

教科書	「図解 四肢と脊柱の診かた」Hoppenfeld, H 著 野島元雄監訳 (医学書院) 「ネッター解剖アトラス」相磯貞和 (南江堂)
参考書	「触診解剖アトラス 頸部・体感・上肢」Tixa, S 著 奈良勲監訳 「触診解剖アトラス 下肢」(医学書院)



授業科目名	生 理 学	単 位 認 定 者	塩 崎 秀 一
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。
学 習 到 達 目 標	人体各部の基本構造と機能、それを生み出す仕組みを確認すること。そして疾患に対したときの機能の低下、変動などをよみとる基礎能力とすることである。
関 連 科 目	解剖学、生化学、運動学
成 績 評 価 方 法	学期末試験、及びレポートなどにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生命とは	細胞・組織・器官	a . 細胞の構造 b . 細胞内小器官の構造
2	体液	体液の恒常性、血液の成分と機能	a . 体液の電解質
3			b . 酸塩基平衡
4			c . 脱水
5			
6			
7	循環、血液	心臓血管系の基本構造と機能、調節	a . 心臓の構造 b . 心臓の機能 c . 血管の構造 d .
8			動脈系と静脈系 e . 脈拍 f . 血圧 g . 血液の成
9			分とはたらき d . 造血 e . 凝固と線溶 h . リンパの流れ
10	呼吸	呼吸器系基本構造と機能、調節	a . 気道の構造と機能 b . 器官・肺の構造と機能 c .
11			呼吸中枢 d . 呼吸に影響を与える因子
12			
13	消化と吸収(消化管)	消化器系基本構造と機能、調節	a . 咀嚼の過程 b . 口腔 c . 咽頭の構造と機能 d .
14			食道の構造と機能 e . 胃の構造と機能
15			

教 科 書	「標準生理学」小澤静司ほか(医学書院)
参 考 書	「ギャノン生理学 原書22版」ギャノン著(西村書店) 「カラー人体解剖学」フレディック・H・マティーニ著(西村書店)

授 業 科 目 名	生 理 学	単 位 認 定 者	塩 崎 秀 一
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。
学 習 到 達 目 標	人体各部の基本構造と機能、それを生み出す仕組みを確認すること。そして疾患に対したときの機能の低下、変動などをよみとる基礎能力とすることである。
関 連 科 目	解剖学、生化学、運動学
成 績 評 価 方 法	学期末試験、及びレポートなどにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	消化と吸収(消化管)	消化管の基本構造と機能、調節	a. 胃の構造と機能 b. 十二指腸, 空調・回腸の構造と機能 c. 結腸、直腸・肛門の構造と機能
2			
3			
4			
5	消化と吸収(肝、膵、胆)	消化器の基本構造と機能、調整	a. 膵臓の構造と機能 b. 肝臓と胆嚢の構造と機能
6			
7			
8	泌尿器と生殖器	腎臓の構造と機能、調整 尿生成、蓄尿と排尿	a. 腎臓の構造 b. 濾過・再吸収分泌 c. 尿量の調節 d. 膀胱と尿路
9			
10	内分泌	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能	a. ホルモンとは b. ホルモンの作用機序 c. 様々なホルモン
11			
12			
13	神経	神経系とは/中枢神経系/末梢神経系 主要な伝導路	a. 神経細胞の生理 b. 神経細胞と情報伝達 c. 中枢神経系を保護する組織 d. 伝達路
14			
15			

教 科 書	「カラスケッチ 生理学」永田豊訳(廣川書店)
参 考 書	

授業科目名	生 化 学	単 位 認 定 者	牛 島 義 雄
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	パワーポイント、プリントを使用
科 目 の 目 的	理学療法の対象となる人間の体を構成するミクロとマクロの世界（生命と物質との繋がり）を栄養学とを織り交ぜた総合的立場から、「根拠に基づく理学療法（EBNT）」をめざし、基本的で、かつ、臨床に役立つ基礎知識を修得する。そして、「人間」の理解を深めることをねらいとする。
学 習 到 達 目 標	生体分子を構成している化学物質にはどのようなものがあるのかを学び、生体内で起こっている生物化学的反応（特に、運動と筋肉・骨、エネルギー代謝）が理解でき、また、生命維持の機構や病気との関連も理解できるようになることである。
関 連 科 目	化学、生物学、栄養学、生理学、薬理学
成 績 評 価 方 法	小テスト（30%）、学期末試験（70%）などにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生体分子、細胞、化学結合、化学反応	生体の成り立ち/個体、器官、組織、細胞/細胞内小器官の機能/細胞分画法/生体を構成する物質/水の構造は？/化学反応/エネルギーの発生	
2	タンパク質の性質	タンパク質を構成しているアミノ酸の種類/高次構造を維持する結合/タンパク質は変性し、機能を失う/血漿タンパク質/神経伝達物質	
3			
4	酵素の性質と働き	酵素とは/酵素の特性/酵素の種類/アイソエンザイム/血清酵素の診断への利用/ビタミン	
5	生体内における	小テスト / (5回目に実施) 糖とは何か/糖の分類/糖は我々の体にとって重要なエネルギー源である/グルコースとグリコーゲンの合成/血糖の調節/糖尿病	
6	糖質の代謝		
7	生体内における	脂質の種類と化学的性質/脂質の代謝/リポタンパク質と脂質代謝異常/イコサノイド/ホルモン	
8	脂質の代謝		
9	活性酸素	小テスト / 活性酸素とは/電子伝達系/生体内における生成とその消去	
10	生体内におけるアミノ酸、蛋白質の代謝	尿素回路/糖新生/アミノ酸の先天性代謝異常症/主な疾患と血漿アミノ酸・タンパク質の変動	
11	生体内における	小テスト (12回目に実施)/核酸の構成成分/核酸の長さは/タンパク質はどのように作られる/いらなくなった核酸の処分/遺伝病の犯人は?	
12	核酸の役割		
13	免疫	抗原と抗体/アレルギー/生体は細菌の侵入にどう対応する?/白血球の殺菌作用	
14		(予備)	
15		期末試験	

教 科 書	マクマリー生物有機化学 生化学編（第2版）J. McMurry 著（丸善）
参 考 書	分子細胞生物学（第5版）J. Darnell 著（東京科学同人） ハーパー 生化学（原著27版）R K Murray 著（丸善）

授業科目名	運動学	単位認定者	高橋正明
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人の身体運動を機能・構造の視点から分析するのに必要となる基本的な知識や概念を学び、自分自身の関節運動を説明することができる。
学習到達目標	1. 関節運動の原則について説明できる。 2. 体幹・肢節の関節運動を機能・構造的見方で説明できる。 3. 骨、靭帯、筋、神経組織の関節運動における役割を説明できる。 4. 関節の一般的構造物を可動性と安定性の要素で分類できる。
関連科目	関連し合う科目 解剖学 解剖学 表面解剖学と触診法 生理学 この科目が基礎となる科目 理学療法評価学 運動器系理学療法学 神経系理学療法学 臨床運動学 日常生活活動学 他
成績評価方法	機能解剖に関する小テスト(クイズ) - - 70% 全体についての定期試験 - - 30%

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	リオエンテーション	運動学とは? 関節運動 英語専門用語	- 3. 運動学 A. 総論 a. 定義、目的 b. 力の基礎 c. 運動器の構造と機能 d. 運動の中樞神経機構 B. 四肢と体幹の運動 a. 顔面・頭部の運動 b. 上肢帯と上肢の運動 c. 下肢帯と下肢の運動 d. 体幹の運動 e. 呼吸運動
2	および運動の原則	運動の法則 軸旋運動 連鎖 生体力学 てこ	
3	"	筋の収縮 共同運動 バランス 支持基底面と重心	
4	骨・関節・靭帯	形態と機能 安定性と可動性	
5	機能解剖足部	足関節の形態と運動	
6	"	足部・の形態と機能	
7	"	筋の働き	
8	"	アーチ構造	
9	機能解剖膝関節	膝関節の形態と機能 (足部・足関節クイズ)	
10	"	半月・靭帯の構造と機能	
11	"	筋の働き	
12	"	立位での役割	
13	機能解剖股関節	股関節の形態と機能 (膝関節クイズ)	
14	"	股関節の力学	
15	"	股関節の力学	
16	"	筋の働き	
17	機能解剖体幹	脊柱の形態と機能 (股関節クイズ)	
18	"	筋の働き	
19	"	呼吸運動	
20	"		
21	機能解剖肩甲帯	肩甲帯の運動(体幹クイズ)	
22	"	肩甲帯を構成する関節の構造と機能	
23	"	靭帯	
24	"	筋の働き	
25	機能解剖肘関節	肘関節の形態と運動 (肩甲帯クイズ)	
26	"	筋の働き	
27	機能解剖手・指関節	手関節の携帯と機能 (肘関節クイズ)	
28	"	手指の携帯と機能	
29	"	筋の働き	
30	"	手の役割	
	定期試験	手関節・手指関節クイズ 運動学総論の試験	

教科書	「基礎運動学 第6版」中村隆一、他 (医師薬出版)
参考書	「関節の生理学 , , 」Kapandji LA 著 荻島秀夫訳 (医師薬出版) 「Kinesiology」Oatis CA 著 (Lippincott Williams & Wilkins)

授業科目名	栄養学（含食品学）	単位認定者	志田俊子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義を中心とするが、その進度に応じ課題を提示し自己学習、調査などを実施し理論としての「学」だけでなく実践活動を伴った学習が可能であるような指導方法を実施する。
科目の目的	「食は命の基本」とあるという哲学のもとに食品すなわち栄養素と人体の関連性を充分理解させ健康状態から逸脱している人々に食生活の指導をいかに行うかということを考えるキッカケをつくり、更に将来NSTのメンバーとして必要な基本知識を養成する事を目的とする。
学習到達目標	講義内容の理解度を判定するための筆頭試験 提出物 100%
関連科目	解剖学 生化学 生理学 病理学
成績評価方法	定期試験 提示された課題についてのレポート 出席状況を総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	栄養学の目的 1	・ 人は何のために食べるか ・ 食べ方には段階がある ・ 食育の必要性	
2	栄養学の科学	・ 栄養素の種類と体内での主たる役割	
3		・ 炭水化物について ・ 単糖類 二糖類 多糖類の構造と解糖作用について	
4		・ 脂質の種類と体内での主たる役割 単純脂質 複合脂質 ステロール化合物 脂肪酸の種類と構造	
5		・ 蛋白質の種類と体内での主たる役割 単純蛋白質 複合蛋白質 アミノ酸の種類と性質	
6		・ ビタミンの種類と体内での主たる役割 水溶性ビタミン 脂溶性ビタミンの分類と性質 生理作用について課題提出	
7		・ 課題について自己学習のじかんを取る (食品成分表を資料としノートに整理し試験範囲に入れる)	
8		・ ミネラルの種類と体内での主たる役割 体液バランスの講義の後 自己学習	
9		・ ミネラルについての自己学習時間とする	
10		・ 食品の機能について	
11		・ 食品分類の考えかた 基本的な考えかた	
12		・ 実践的な考えかた	
13		・ 食生活の計画	
14		・ 献立と成分表	
15		・ 献立作成の総括・反省	

教科書	「五訂増補 食品成分表」(女子栄養大学出版部 出版)
参考書	

授業科目名	医療概論	単位認定者	小林 功
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	医療分野に関する各講義に先立ち、医学・医療の問題を幅広く概観し、専門分野の学習につなげる。
学習到達目標	「医学・医療とは何か、現代医療はどのように実践され、どのような問題をかかえているのか」を幅広く理解し、考えることを目標とする。
関連科目	すべての臨床医学、生命倫理など
成績評価方法	筆記試験（場合によっては中間試験も行う）および出席、授業態度

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	医学・医療の歩み ( 1 )	「人類の誕生と文化の発達」から「近代医学の基礎と臨床医学の近代化」	1. 医学概論 A. 医学の定義  B. 健康・疾病の概念 a. 生命倫理 b. 健康と病気 c. 病気の原因 d. 病原微生物と滅菌  C. 医療行為 a. 診療補助行為 b. チーム医療  D. 医療行為 c. 診療補助行為 d. チーム医療  E. 医の倫理 a. 医の倫理 b. インフォームド・コンセント c. 守秘義務
2	医学・医療の歩み ( 2 )	「近代医学の発展 現代医療の基礎」	
3	医学・医療の歩み ( 3 )	「今後の医学・医療の方向」	
4	健康と疾病 ( 1 )	「健康の概念」、「疾病」	
5	健康と疾病 ( 2 )	「生活と健康」	
6	医学と医療 ( 1 )	「医学と医療」、「医療の本質」	
7	医学と医療 ( 2 )	「医療の実践」	
8	わが国の医療供給体制 ( 1 )	「医療供給体制の現状と整備の経過」	
9	わが国の医療供給体制 ( 2 )	「医療関係者の現状と養成の実態」	
10	わが国の医療供給体制 ( 3 )	「医療保障の現状と課題」	
11	現代医療における諸問題 ( 1 )	「医療の進歩と医の倫理」	
12	現代医療における諸問題 ( 2 )	「医療における患者の権利」、「病状 ( 真実 ) 告知」	
13	現代医療における諸問題 ( 3 )	「脳死と臓器移植」	
14	現代医療における諸問題 ( 4 )	「死と生命保持、安楽死、死を共有する医療」	
15	現代医療における諸問題 ( 5 )	医療概論まとめ	

教科書	「新体系看護学 6 現代医療論」(メヂカルフレンド社)
参考書	「学生のための医療概論」 千代豪昭 医学書院、「ヒトゲノムのことが面白いほどわかる本」大拙博義 中経出版、「ケースブック医療倫理」 赤林 朗、大林雅之 医学書院

授業科目名	病理学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症(免疫・膠原病)、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。
学習到達目標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護で必要とされる内容の理解と知識とを得ること。
関連科目	解剖学(総論、各論) 生理学 生化学 内科学
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、疾病の分類。	-1.病理学概論 A.病因論 a 内因と外因 b 細胞組織の病理学的変化 B.退行性病変と代謝異常 a 萎縮・変性・壊死 b 代謝異常 C.進行性病変 a 肥大と再生 b 創傷治癒と異物処理 D.循環障害 E.炎症と免疫 a 炎症 b 感染と免疫 c アレルギー F.腫瘍 G.先天異常 a 遺伝 b 奇形 H.老化
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。	
3	代謝異常1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応、細胞障害の結果としての物質沈着。	
4	代謝異常2	脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。	
5	循環障害1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、虚血、出血、ショック。	-1.人体の構造と機能 A.総論 B.骨格系 C.筋系 D.神経系 E.呼吸器系 F.循環器系 G.感覚器系 H.運動器系
6	循環障害2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。	
7	炎症と免疫、膠原病1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、炎症の各型。	
8	炎症と免疫、膠原病2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫。	
9	炎症と免疫、膠原病3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、膠原病。	
10	腫瘍1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度。	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
11	腫瘍2	腫瘍の発生病理．腫瘍の発生原因．がん発生の外因．がん発生の内因．腫瘍の診断と治療．がんの予防．	
12	老化と死	老化とは．ホメオスタシスの老化．主要組織・臓器の老化．死について．	
13	病理検査	病理検査の意義．細胞診．生検組織診．手術時の迅速診断．病理解剖．病理組織・細胞診標本の作製課程．	
14	その他	必要に応じて上記を補う．	
15	その他	必要に応じて上記を補う．	

教科書	
参考書	



授業科目名	公衆衛生学	単位認定者	石 館 敬 三
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	健康及び公衆衛生の基礎的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。
学習到達目標	生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。
関連科目	生命倫理 環境学 地域社会学 情報処理 救急・免疫・感染症学
成績評価方法	定期試験 出席状況 研究発表 等

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	公衆衛生の理解 人口と公衆衛生	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合	-1.医学概論 E.保健と医療 a)医療供給制度 b)母子保健 c)成人保健 d)老人保健 e)精神保健 f)産業保健 g)感染症対策
2	環境と公衆衛生 同上 食と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題 大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準 食中毒の発生状況、食中毒の種類	
3	国民の健康と保健統計 同上	健康指標、20世紀100年の変化 年齢調整死亡率の意義	
4	疫病の疫学と予防	疫学概念、疫学調査方法、因果関係推論、 スクリーニング	
5	同上 同上	感染症の疫学、新感染症予防法 結核対策、HIV対策	
6	生活習慣病対策 公衆衛生活動例	がんの予防、その他生活習慣病予防 精神保健対策、介護保険制度	
7	同上 保健・医療行政	母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策 地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費	
8	課題研究発表	指定課題による研究発表	

教科書	「新体系新体系看護学7 社会保障制度と生活者の健康 公衆衛生学」小野寺伸夫（メヂカルフレンド社）
参考書	「国民衛生の動向」厚生統計協会（厚生衛生協会）

授業科目名	リハビリテーション概論	単位認定者	松澤 正
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。
科目の目的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。
学習到達目標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関連科目	理学療法概論 リハビリテーション医学
成績評価方法	筆記試験やレポート等を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1		リハビリテーションの定義、理念、歴史	-2.リハビリテーション概論
2		障害論	A. 総論
3		障害者の心理	a. リハビリテーションの定義・歴史
4		リハビリテーションの構成	b. ノーマライゼーション
5		医学的リハビリテーション	c. 自立生活
6		チーム医療とリハビリテーション医療の進め方	d. QOL
7		地域リハビリテーション	B. 障害の概念と分類
8		リハビリテーションにおける評価学	C. 障害と心理
9		治療学、症例	D. リハビリテーションの進め方
10		教育的リハビリテーション	a. リハビリテーション関連職種とその役割
11		職業的リハビリテーション	b. チームアプローチ
12		社会的リハビリテーション	c. 評価会議とゴール設定
13		社会的リハビリテーション	E. リハビリテーションの諸相
14		寝たきり老人のリハビリテーション	a. 医学的リハビリテーション
15		まとめ	b. 教育的リハビリテーション
			c. 職業的リハビリテーション
			d. 社会的リハビリテーション
			e. 地域リハビリテーション
			F. 保健医療福祉制度
			G. 関係法規

教科書	プリント教材を使用する。
参考書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）

授業科目名	臨床心理学	単位認定者	森 慶 輔
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	必 修

指導方法	講義および実習
科目の目的	保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術の習得を目指す
学習到達目標	臨床心理学の基礎理論，特に臨床心理検査法と心理療法について理解し，保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得すると同時に，理学療法士国家試験に合格しうる実力を身につけることが目標である。
関連科目	すべての科目と関連（前期に履修する心理学の内容を基に講義を行い，コミュニケーション（相談）実技については2年次に開講されるカウンセリングで扱う予定である）
成績評価方法	第 15 回に実施する期末試験（50%），第 4 回と第 8 回に実施する小テスト（それぞれ 10%），小レポート 2 本（それぞれ 15%）を総合して評価する（出席が学則の規定に満たない学生は期末試験の受験資格を喪失するので，きとんと出席すること）。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1 2 3	臨床心理学とは (基礎理論，正常および異常心理)	1. 臨床心理学とは？ - 定義と歴史 - 2. 問題行動の意味 - 正常と異常 - 3. 発達段階と心理的問題 4. 医療領域における臨床心理学的視点 - 転移・逆転移と防衛機制 -	2 臨床心理学 A 基礎理論 B 正常および異常心理 C 臨床心理検査法 D 心理療法およびカウンセリング
4 5	臨床心理アセスメント (臨床心理検査法)	1. 心理アセスメントとは？ 1-1. 行動観察によるアセスメント 1-2. 面接法によるアセスメント 1-3. 心理検査によるアセスメント 2. 知能検査によるアセスメント 2-1. ビネー式知能検査 2-2. ウェクスラー式知能検査 2-3. その他の知能検査（認知症スクリーニング検査を含む）	
6 7		3. 心理検査によるアセスメント(1) 【実習】矢田部ギルフォード性格検査，ロールシヤッハテスト 4. 心理検査によるアセスメント(2) 【実習】風景構成法，内田クレペリン精神検査	
8 9 10 11 12 13	心理療法の理論と実際	1. 精神分析的な心理療法 2. 分析心理学的な心理療法 【実習】箱庭療法 3. クライエント中心療法 4. 行動療法・認知行動療法 5. 家族療法，短期療法 6. グループ・アプローチ 【実習】回想法	
14		7. チーム医療，リハビリテーションに活かす心理療法・カウンセリングの知識	
15		試験	

教科書	「心理学・臨床心理学入門ゼミナール（改訂版）」島井哲志・池見 陽 編（北大路書房）2009 年
参考書	「医療心理学の新展開」鈴木伸一 編著（北大路書房）2008 年 「24 の臨床シーンでわかるコミュニケーションの上手な方法」町田いづみ（照林社）2006 年

授 業 科 目 名	障害者スポーツ・レクリエーション論	単 位 認 定 者	近 藤 照 彦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	障害者スポーツは、テキストの理論編を中心とした講義を指導する。実践編として車椅子バスケットボールの講義を予定している。レクリエーション論は、リハビリテーションの臨床場面で使われている障害に応じた代表的なものをグループで演習する。
科 目 の 目 的	本講義では、障害者スポーツ理論に関する健康、運動能力、リハビリテーションなどの側面が心身に及ぼす影響について学習する。障害に適応するレクリエーション活動を立案し、発表することができる。
学 習 到 達 目 標	テキストの理論編の講義内容がおおむね理解できること。 グループワークにより、障害に適応するレクリエーションを発表することができる。
関 連 科 目	運動生理学、健康スポーツ理論
成 績 評 価 方 法	出席、定期試験、グループ発表により総合的に判断する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	ガイダンス	アダプティド・スポーツとは何か	
2	講義	健康とアダプティド・スポーツ	
3	講義	健康とアダプティド・スポーツ	
4	講義	体力、運動能力向上とアダプティド・スポーツ	
5	講義	体力、運動能力向上とアダプティド・スポーツ	
6	講義	アダプティド・スポーツとリハビリテーション	
7	講義	アダプティド・スポーツとリハビリテーション	
8	講義	車いすバスケットボール	
9	講義	レクリエーションのガイダンス	
10	講義	レクリエーションの範囲と種類	
11	講義	集団の意義、立案と発表への展開	
12	講義	グループワーク	
13	講義	グループワーク	
14	講義	グループワーク	
15	講義	グループワーク	

教 科 書	アダプテッド・スポーツノ科学
参 考 書	レクリエーション(三輪書店)、バリアフリースポーツ(サンウェイ出版)

授業科目名	理学療法概論	単位認定者	浅田春美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義14コマ・学外実習(施設見学)1コマ
科目の目的	この科目では、「理学療法とは何か」について理学療法の定義、目的、歴史、対象や業務、職域、職業倫理など概説し、理学療法の全体像を理解することを目的とする。また、理学療法士に必要な知識・技術・態度を自ら考えられるようになることを目的とし、毎回の講義への参加をジャーナルとしてまとめ自身の振り返りを行う。障害体験や理学療法体験などの演習、施設見学を取り入れて理解を深める。
学習到達目標	1. 理学療法の定義、歴史、対象、業務、役割などの理学療法の基本を説明できる。 2. 理学療法士の技術を一部体験する事から、今後の学習に必要なことをイメージできる。 3. 施設見学を通しリハビリテーションの流れを確認し、理学療法(士)をイメージできる。 4. グループワークの中で自分の役割を果たすことができる。 5. 意見交換や見学した内容を適切に記録し、報告することができる。
関連科目	リハビリテーション概論 看護学入門 作業療法概論 言語聴覚治療概論 理学療法セミナー ・ ・ 見学実習
成績評価方法	ジャーナル(毎回の講義の振り返り)の提出、出席状況を加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション	講義概要 理学療法士を目指した動機 G.W.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 1. 理学療法士 A. 定義 B. 歴史</li> <li>- 1. 理学療法士 C. 理念 a. 保健・医療・福祉における理学療法の考え方</li> <li>- 1. 理学療法士 D. 対象と目的 a. 保健・医療・福祉における理学療法 b. 障害の捉え方(障害分類)</li> <li>- 4. B. 法規 a. 理学療法士及び作業療法士法 b. 関連法規</li> <li>- 4. 医療専門職と倫理 A. 倫理 a. ノーマライゼーション b. インフォームド・コンセント</li> <li>- 4. C. 管理 a. 理学療法部門の管理運営 b. チームワーク</li> </ul>
2	理学療法の概念	理学療法の定義・目的・理念・歴史	
3		理学療法の対象の理解 「障害とは」(障害体験)	
4		” 障害体験のまとめ	
5		障害を持った方の講演	
6	理学療法の流れ	リハビリテーションの中での理学療法の位置づけ 各種理学療法技術の歴史	
7		理学療法の評価	
8		理学療法の技術体系 (体験)	
9		理学療法の技術体系 (体験)	
10	職域と役割	医療・保健・福祉分野における理学療法	
11	理学療法士の適正	グループワーク	
12		グループワーク	
13	理学療法士の倫理	報告とまとめ	
14	理学療法の実際	施設見学 別日程(後日掲示)で実施	
15	”	”	

教科書	「理学療法概論 第4版」奈良 勲(医歯薬出版株式会社)
参考書	「理学療法概論 第4版」奈良 勲(医歯薬出版株式会社) 「理学療法概論 第4版(理学療法科学シリーズ)」理学療法科学学会編(アイベック株式会社) 「目でみるリハビリテーション医学」上田 敏(東京大学出版)

授業科目名	基礎理学療法学	単位認定者	江口勝彦
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	リハビリテーション医療は疾病や障害を対象とするのではなく、疾病・障害を持った人を対象とするといわれるが、理学療法という治療手段が対象とする本質は、器官・組織の病理的变化や病態生理的变化である。各種障害の発生機序と回復過程の理解、さらには「病理-機能形態障害-機能的制限-能力の障害-社会参加の制限と不利」という障害過程、障害構造を分析することを通じ、現象として目に見える障害から、その本質(病理的变化)を類推し、理学療法という臨床技術の本質を理解する。
学習到達目標	<p>&lt;一般目標&gt;本講座の到達目標は、理学療法の基盤を理解し、理学療法専門科目を学ぶための準備状態確立させることである。理学療法の対象領域・障害構造・基本的用語ならびに専門用語の調べ方などについて教授する。さらに、理学療法の対象と治療手段について、その基礎理論の一部を教授した上で、紙上症例を通して、自ら学習する過程を持ち、学習湯方法を涵養する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法が対象とする領域について説明できる。</li> <li>2. 障害過程・障害構造について、Nagiのモデルを使い、説明できる。</li> <li>3. 基本的用語の理解と、専門用語の確認方法を修得する。</li> <li>4. 代表的な疾患・障害について理学療法の考え方と治療戦略の概要を知る。</li> </ol>
関連科目	<p>専門基礎科目群：解剖学、生理学、運動学、運動生理学、リハビリテーション医学</p> <p>専門科目群：運動系理学療法学、神経系理学療法学、呼吸・循環・代謝系理学療法学、徒手系理学療法学、高齢者理学療法学、スポーツ傷害・障害理学療法学</p>
成績評価方法	演習中心であるため、グループワークの参加度、貢献度、発表などを総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	コースオリエンテーション 総論1	科目の概要・講義スケジュール 予習項目の提示 理学療法の対象領域	基礎理学療法学 3. 理学療法の基礎理論。
2	総論2	ミニクイズ 障害構造・障害過程と理学療法、リハビリテーション	A. 関節可動域運動の理論 a. 関節運動のメカニズム b. 他動的関節可動域運動 c. 自動的関節可動域運動 d. 関節可動域制限(拘縮・強直を含む)
3	ターミノロジー1	ミニクイズ ターミノロジーA to Z1	
4	ターミノロジー2	ミニクイズ ターミノロジーA to Z2	B. 神経・筋機能の理論 a. 中枢神経系 (覚醒、促通、抑制、運動麻痺、痙縮、固縮) b. 末梢神経系 (伝導、再生、運動麻痺など) c. 反射・反応 d. 筋収縮・弛緩 e. 筋力・持久力・協調性 f. 筋肥大・萎縮
5	ターミノロジー3	ミニクイズ ターミノロジーA to Z3	
6	関節可動域制限1	ミニクイズ 関節可動域制限の分類・発生機序・病態生理	
7	関節可動域制限2 グループワーク	覗いてみよう！ 関節可動域制限に対する理学療法戦略	C. 運動制御・運動学習の理論 a. 発達・加齢 b. 随意運動・不随意運動 c. 姿勢 d. 姿勢反射 e. フィードバック
8	筋力低下1	ミニクイズ 筋力低下の分類・発生機序・病態生理	
9	筋力低下2 グループワーク	覗いてみよう！ 筋力低下に対する理学療法戦略	D. 痛みの理論 a. 評価 b. メカニズム c. 病態
10	運動制御障害1	ミニクイズ 運動制御障害の分類・発生機序・病態生理	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
11	運動制御障害2 グループワーク	覗いてみよう！ 運動制御障害に対する理学療法戦略	E. バイオメカニクス
12	体力（心肺フィットネス） 低下1	ミニクイズ 体力（心肺フィットネス）低下の分類・発生機序 ・ 病態生理	
13	体力（心肺フィットネス） 低下2 グループワーク	覗いてみよう！ 体力（心肺フィットネス）低下に対する理学療法戦略	
14	痛み1	ミニクイズ 痛みの分類・発生機序・病態生理	
15	痛み2 グループワーク	覗いてみよう！ 痛みに対する理学療法戦略筋力増強運動 ミニクイズ	

教科書	奈良 勲（編著）：理学療法概論．医歯薬出版 奈良 勲（監修）内山靖（編）：理学療法学事典．医学書院 初山 泰弘（監）：図解 自立支援のための患者ケア技術．医学書院
参考書	上田敏，千野直一，大川嗣雄（編）：リハビリテーション基礎医学，医学書院 服部一郎，他：リハビリテーション技術全書第2版，医学書院 理学療法科学学会編：理学療法概論 第4版（理学療法科学シリーズ），アイベック 上田 敏：目でみるリハビリテーション医学，東京大学出版 ほか

授業科目名	理学療法評価学	単位認定者	蛭間基夫
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義および実習
科目の目的	理学療法評価の意義、目的、評価の過程を知ること。また、基本的事項である情報収集、問診、記録と形態計測および関節可動域測定ができるようになること。
学習到達目標	理学療法評価の意義、目的、評価の過程が言える。情報収集、問診の必要項目を挙げることができる。記録方法が言える。評価時に理学療法士が配慮すべき点を挙げることができる。学生同士で形態計測および関節可動域測定ができる。
関連科目	理学療法概論 理学療法評価学演習 運動器系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学 呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学
成績評価方法	筆記試験及び実技試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	総論1	意義・目的 評価の対象, 評価の種類, 評価の過程 評価の時期と目的	<p>-2. 理学療法の過程 A. 評価 a. 情報収集と分析 b. 患者のニーズと問題点 B. 治療計画 a. 治療方針 b. 目標の設定 c. 目標達成の時期 d. 治療計画の立案 C. 治療の実施 a. 治療手順の設定 b. 治療記録・報告 D. 効果判定 a. 治療内容の妥当性 b. 目標達成の評価</p> <p>-1. 理学療法評価の基本的理解 A. 評価の時期と進め方 a. 初期・中間・最終評価の意義・目的・手段 b. 評価の手順 c. 問題点の捉え方・統合と解釈</p> <p>-2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 c. 四肢長・周径測定</p> <p>-2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 d. 関節可動域測定</p>
2	総論2	接遇・オリエンテーション インフォームド・コンセント 守秘義務, 個人情報保護法	
3	総論3	評価環境・評価器具・評価時の注意点 情報収集(医学的情報・社会的情報) 病歴のとり方, 面接, 問診, 観察	
4	総論4	記録 記録の4条件, 記録内容, 理学療法診療記録, POS, 報告書	
5	各論1-3	形態計測(1)	
6		形態計測(2)	
7		形態計測(3)	
8	各論4-8	関節可動域測定(1)	
9		関節可動域測定(2)	
10		関節可動域測定(3)	
11		関節可動域測定(4)	
12		関節可動域測定(5)	
13	試験 試験	実技試験	
14		筆記試験	
15	まとめ	理学療法評価の課題	

教科書	「理学療法評価学第2版」松澤正著(金原出版株式会社)
参考書	「理学療法ハンドブック第1巻」細田多穂, 柳澤健編(協同医書出版社) 「標準理学療法学専門分野理学療法評価学」奈良勲監修(医学書院) 「DVD series PT・OTのための測定評価1 ROM測定」福田修監修(三輪書店) 「DVD series PT・OTのための測定評価2 形態測定・反射検査」福田修監修(三輪書店)



